第２学年算数科「1000までの数」単元構想図（総時数 11時間）

本単元で必要とされる既習の基礎的・基本的な知識・技能及び考え方

(1) 知識・技能
（１年）① 100までの数の十進位取り記数法、空位を表わす「０」
② 100までの数の数直線
③ 100までの数の相対的な大きさに基づく加法・減法
(2) 考え方
㋐ 半具体物を対応させて考えようとする。
㋑ 10の束を作って数えようとする。（新しい単位へ）

【指導計画】

時	主な学習活動・内容	基礎的・基本的な知識・技能及び考え方の活用		活用を促進するための手だて
1	折り鶴の数を数えることを通して、100をこえる数の表し方や仕組みを調べるという課題をつかむ。 Ａ 100をこえる３位数のよみ方（命数法） 言 グループごとに考えた数え方の中から一番分かりやすい方法を書く。	① ㋑	10のまとまりをつくって数える。 10のまとまりを10集めて100のまとまりをつくればよいことに気付く。 数えやすいように数のまとまりを大きさの順に並べる。	たくさんの折り鶴を見せ、数えやすいようにするにはどのようにしたらよいかをグループで考えさせる。 グループで考えたことを発表し合い、考えのよさを確かめ、実際にその方法で数えさせる。
2	「二百三十五」について３位数の表し方を知り、３位数の仕組みを考える。 Ｂ 1000までの数の十進位取り記数法 言 １年生の位取り板をどのように「改造」したらよいか、友だちと意見交換する。	① Ａ	100の束を入れる「百の位」が必要であることに気付く。 位取り板を活用して、各位の意味を理解する。	百の位の必要性を感じさせるために、１年生の時に使った一の位と十の位のある位取り板をどのように「改造」したらよいか、考えさせる。
3	「二百八」について空位のある３位数の表し方を知り、空位のある３位数の仕組みを考える。 Ｂ′ 1000までの数の十進位取り記数法	① Ｂ	「０」は空位を表わすことを位取り板を使って想起する。	「０」を書く意味（よさ）を感じ取らせるために、十の位に０を書いた場合と「０」を書かなかった場合とを比べさせる。
4	10円玉、100円玉を使って、10を単位とした数の構成や分解についてまとめる。 Ｃ 10を単位とした数の相対的な見方	㋐ Ｂ′	100円は10円玉10個になることを基に、お金の模型の操作を通して数の構成や分解を考える。	数の構成や分解を考えさせるために、10円玉の数に着目させる。また、今まで学習で使ってきた10の束・100の束を10円玉・100円玉に置き換えていることにも気付かせる。
5	折り鶴を100ずつ線で囲む活動を通して、1000という数の構成や系列を考える。 Ｄ 1000という数の仕組み	① Ａ Ｂ′ Ｃ	10のまとまりから100のまとまりをつくって調べればよいことに気付く。	100のまとまりに気付かせるために、６年生が修学旅行用に作った千羽鶴を提示する。10束で構成されている千羽鶴を基に、１束は何羽で作られているかについて考えさせる。
6	１目盛りが100の数直線を見て650、340、990はどこになるか考え、1000までの数の系列や順序をとらえる。 Ｅ 1000までの数の系列や順序 言 ３つの数の数直線上の位置を考え、その根拠を考え、話し合う。	② Ｄ	１目盛りが100になることから、１目盛りを10こに分けて目盛りをうつと10の目盛りになることに気付く。	10の目盛りの大きさについてとらえさせるために、教室全体を使った大きな数直線を用意し、３つの数がどの辺りになるかを考えさせる。
7 本時	**「大きさくらべゲーム」を通して、十進位取り記数法の仕組みを基に３位数の大小比較をする。 Ｂ″ 1000までの数の十進位取り記数法 Ｅ′ 1000までの数の系列や順序 言 数の大きさをくらべる方法について話し合ったり、ゲームから学んだことを書いたりする。**	**Ｂ′ Ｅ**	**十進位取り記数法を基に、どこの位の数字を見れば大きさ比べができるかを考える。**	**100ごとの目盛りを意識させるために、０、100、1000のみを示した数直線を提示する。また、言語活動を活発にするために、数直線の前に代表児童を立たせ、他の児童の意見を聞いて位置を移動する場面を設定する。**
8	「おはじき入れゲーム」を通して３位数の数の仕組み、大小比較の仕方、不等号の意味を理解する。	Ａ Ｂ″ Ｅ′	ゲームの結果の確認等において、３位数の仕組みや大小比較を行う。	10このおはじきを使って３位数ができるゲームをさせる。 100のゾーンに入ったおはじきの数が100の位の数になることを位取り板を使って実感させる。
9	学習内容の適用と習熟（練習）	AB″ CDE		
10	（何十）＋（何十）、（百何十）－（何十）の計算の仕方について知る。	Ｃ Ｂ″	10円玉を使って、10を単位にしたそのいくつ分になるかを考える。	理解の進んだ児童には、位を意識して計算させる。
11	（何百）±（何百）、（何百）＋（何十）、（何百何十）－（何十）の計算の仕方について知る。	Ｃ Ｂ″	10円玉や100円玉、10や100の束をイメージして考える。	理解の進んだ児童には、位を意識して計算させる。